図書館だより 第36号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

目　次
Contents

■「図書館の思い出」小川　英司 …… 2P

■「ラーニングコモンズへの期待」小林　潤司 …… 3P

■「対話としての書き込み」村瀬　士朗 …… 4P

■ 図書館サポーター活動報告 …… 5P

■ Library Report …… 6～8P

図書館の思い出

図書館長・経済学部教授　小川　英司

今年度の図書館の最大の事業は、ラーニング・コモンズの開設と運営ですが、開設もすみ色々な利用もすでに始まりました。また、横で小林先生がこれについて有意義で楽しい話しを懇切に語っていただいています。今後もさまざまな方々のご協力によってこの事業を一層盛り立てていきたいと思っています。ということで、今回は別の話しをします。

私は学生時代に図書館員をまる２年やっていました。東京の大手私大の大学院修士課程のときでしたが、ここには「学生職員」という制度がありまして、学籍をもったまま職員の仕事ができるものでした。給与はたいしたものではありませんでしたが、賞与が正規職員と同じ月数でるので大変恵まれたアルバイトでした。図書館は夜間部がある関係で９時まで開いていて、そのうち私の就業時間は午後の４時から９時までした。６時ごろに50分ほどの夕食休憩もあってその面でも恵まれていました。

私の仕事は閲覧係りで、地上７階地下３階の書庫各階にある図書用エレベーターの近傍に待機して請求された票の図書を探してエレベーターにのせ閲覧カウンターに送ることでした。この図書館の図書はすべて閉架式で利用者はかならず請求票を書く必要がありました。チンと鳴ってエレベーターの扉を開けると何枚かの票があって、それを頼りに書架のジャングルのなかに探索に行くというかっこうです。配置になる階によって頻度はさまざまで、場合によっては１日数冊で終わることもあって、寸暇を惜しんで読書にいそしむ者にとっては大変都合のよい部署でした。

図書館の建物は外観は立派でしたが、とにかく古いので内部はかなりみすぼらしいものの、さまざまな図書とりわけ人文書の絢爛たる背表紙たちがそれを補って余りあるものにしていました。平凡社の東洋文庫は緑一色の壁そのものですし、J.ニーダムの『中国の科学と文明』の原書版は極彩色のアバンギャルドだし、南伝大蔵経はほとんどアンコールワットのレリーフそのものでした。

仲間たちが親の援助で悠々と研究にいそしんでいることに嫉妬しなかった、と言えば嘘になります。しかし、この仕事は私には大変都合のよいものだったし、かのＪ.Ｌ.ボルヘスが長い間ブエノスアイレスの図書館員だったことも私の密かな誇りでした。

９時が近づくと最後に肉体労働がまっています。貸し出された数百冊の図書をもとの書架にいっせいに返すのです。これは各階二人づつが担当するのである種競争になります。最後の苦役が競争なので意外にはかどります。 20分ほどの勝負をきめ汗をぬぐって１日の終わりです。もっとも重くて出すのも返すのも一番苦労したのは、北伝大蔵経でした。１冊おそらく45キロはあったと思います。このように、青年のある時期図書館が私の生息場所でしたが、良い思い出しかありません。

ラーニングコモンズへの期待

教務部長・国際文化学部教授　小林　潤司

本学附属図書館２階に「ラーニングコモンズ」というスペースがオープンしました。「コモンズ」とは「共有地」のこと。元々は、私有地として囲い込まれていない牧草地や荒地を指して使われた言葉です。誰もが自由に立ち入って使える場所ということですね。「ラーニングコモンズ」は「学習のために人々が集まって自由に使える場所」ということになるでしょう。部屋には電子黒板、可動式机・椅子、ホワイトボード、ＰＣ、プリンター等も設置されていますので、ゼミや自主的なグループの学習会や研究成果の発表会、その準備のために持って来いの場所になっています。

10月15日に開催されたオープニングセレモニーで図書館長の小川先生が挨拶の中で、「狭い意味の学習のためだけでなく、学生、教職員、地域住民のみなさんに楽しんでもらえるイベントなども開催していきたい」と抱負を述べられましたが、これには私も大賛成です。図書館と大学が蔵している奥深い学びの世界への入り口になるような、親しみやすいイベントが、このラーニングコモンズで定期的に開催されたらと期待せずにはおれません。

図書館内では通常、飲食は厳禁ですが、このラーニングコモンズではOKと聞いて、ふと思い出したのは、以前、客員研究員として在籍したイギリスの大学で開かれていた「ランチ・アワー・レクチャー」という公開講座のことです。その大学では月に１回、お昼休みの時間帯に大教室でこの「昼飯時の講義」を開催しています。飲食自由で、教室の前では購買部が食事や飲み物の出張販売も行っているという手回しの良さ。サンドイッチを片手に紙コップのコーヒーを飲みながら講義を聴いている人もたくさんいます。公開講座ですから一般市民も聴きに来ますが、学生や教職員の参加も多く、自分の専門とは違うテーマの話にも熱心に耳を傾けています。異なる分野の研究の最先端に触れることで、専門分野の学習や研究上のヒントを得ようという殊勝な意欲ということはもちろんあるのでしょうが、わざわざ時間を作って聴きに行かなくても、お昼を食べる時間にちょっと立ち寄って聴ける気軽さがウケているようでした。

本学のラーニングコモンズでも、お昼時のミニレクチャーが定期開催されたら楽しそうです。図書館内のレクチャーですから、古今の名著を30分間で早わかりできるミニ講義なんてどうでしょう？５分でお勧めの本を紹介するビブリオバトルなどもおもしろそうです。それがお昼時にお弁当やパンを食べながら聴けるとしたら……。

もちろんお昼時には限りません。ゼミや研究室で、活動の成果を学内外の人たちに還元するイベントを、このラーニングコモンズで催してみてはいかがでしょうか？何も特別なことをしなくてもよいのです。これまで開いていた研究発表会や卒論発表会をラーニングコモンズを使って開いてみるというところから始めてみてもよいと思います。また、公開ゼミナールというかたちで、いつも行っているゼミを外部に公開するというスタイルでもよいでしょう。さまざまな形で、ラーニングコモンズが、学ぶ人、学びを求める人と人の出会いの場として広く活用されていくことに期待するとともに、私自身もこの場所を使っての活動を早速考えてみたいと思っています。

対話としての書き込み

国際文化学部教授　村瀬　士朗

今年、2016年は夏目漱石が亡くなってから100年目のメモリアルイヤーです。漱石は49歳で亡くなっているので、来年2017年が生誕150年になり、今年来年と記念の年が続くことになって、いろいろなイベントが企画されています。2016年最初の「図書館だより」ということで、今回は、漱石と図書館、漱石と書物のかかわりについて書いてみましょう。

漱石の作品の中で最も自伝的な要素が強い『道草』という小説の中に、漱石自身をモデルとする大学教員の主人公が、教え子の青年と図書館をめぐって話をする場面が出てきます。その中で主人公は「図書館」を「牢獄のようなもの」だと言って、青年を驚かせます。

漱石の作品には、書物とかかわる人物が数多く登場するのですが、彼らの多くは人間関係に不和を抱えていて、書斎にこもる彼らの姿には孤独の影が色濃く感じられます。

しかし、一方で漱石は、書物が他者との関係を開いてくれる可能性を持ったメディアであることを書いてもいました。『三四郎』という大学新入生を主人公にした学園小説に、大学に入学したばかりの三四郎が図書館に行って膨大な蔵書に驚き、どの本を見てもすでに誰かが借りて読んだ跡があることに気付いて、学問の世界の広大さと自分の知識の狭さに愕然とするという場面があります。面白いのはここに書かれている書物を通した他者との出会いが、単に著者との関係に留まらないことです。三四郎が図書館の本に既読者の痕跡を見つけられたのは、そこに鉛筆で線が引かれていたり、感想が書き込まれたりしていたからでした。三四郎は、そのどこの誰だかわからない昔の卒業生の書き込みに啓発されて、あれこれと思考をめぐらせていきます。そして、そんな書き込みのある図書館の書物の一冊から、後に強く影響を受けることになる高等学校の英語教師、広田と出会っていくことになるのです。

「図書館だより」で、図書館の本に線を引いたり、書き込みをしたりすることを唆してはいけないのでしょうが、最近の図書館は、蔵書の保存ということに厳格であるあまり、図書館本来の書物を介した読者のコミュニケーションというものから離れていっているように感じます。公共の図書館などでは読者からのリクエストを最優先してベストセラーを何冊も買って、ブームが過ぎて読まれなくなると廃棄処分にするようなところも増えているようですが、それは書物を単なる消費財として扱うことです。ブックオフのように新品からどれだけ「劣化」しているかという基準だけで古本に価格をつけるリサイクルショップの台頭もあって、書物への書き込みは商品価値を下げる行為としてしか見られなくなってしまっていますが、昔は、古書を買うといろいろな書き込みがあって、それを読むのが面白かったものです。ある高名な文芸評論家の本を古書店で買ったら、その評論家と大学で同僚の研究者への献呈の言葉が書いてあったこともありました。その研究者は贈られた献呈本を古本屋に売り払っていたというわけです。有名作家が残した蔵書の書き込みなどは、文学研究者にとっては研究材料をみつける宝の山です。

書物への書き込みが魅力的なのは、何よりそこに読書行為という作者と読者のコミュニケーションの痕跡が残されているからです。内に閉ざされた活字との孤独な対峙は図書館を「牢獄」にするでしょう。しかし書物が作者と複数の読者が関係をつなぐメディアとなるとき、図書館が未知の他者との関係を開く交感の場になりうるという可能性を、漱石の作品は示してくれているのではないかと思います。

図書館サポーター活動報告《2015年度》

4月　・新入生勧誘
　　・テーマ展示　『上橋菜穂子』
　　『新生活』
5月　・テーマ展示　『ゴールデンウィーク』
　　『母の日』
6月　・テーマ展示　『梅雨』
　　『ジューンブライド』
　　・選書ツアー

7月　・「晴読雨読（夏号）」発行
　　・オープンキャンパス 7/21
　　サポーター企画イベント
　　「ブックトーク」「クイズラリー」
　　「地下探検」実施
　　サポーター紹介リーフレット発行・配布
　　・テーマ展示『花火・祭り』
　　『夏休み・海』『戦争』
8月　・オープンキャンパス 8/5
　　サポーター企画イベント
　　「クイズラリー」「書庫探検」実施
　　サポーター紹介リーフレット配布

10月　・テーマ展示『オカルト＆ハロウィン』
　　『江戸川乱歩』
　　・オープンキャンパス 10/12
　　サポーター企画イベント
　　「クイズラリー」「書庫探検」実施
　　サポーター紹介リーフレット配布
11月　・テーマ展示『祭り』『お菓子』
　　・選書ツアー
12月　・クリスマスツリー飾り
　　（図書館エントランスホール）
　　・テーマ展示『あみもの』『冬の食べ物』
　　・第一回鹿児島県大学図書館学生サポーター会議
　　・「晴読雨読（冬号）」発行

私たち図書館サポーターは、2015年12月に初めて開催された「第一回鹿児島県大学図書館学生サポーター会議」に出席しました。県内それぞれの大学で活動している図書館サポーターと交流ができ、刺激を受けました。この模様は、ブログに掲載しています。

ブログには、図書館サポーターの活動や、おススメ図書、テーマ展示の紹介を掲載しています。ぜひ「鹿児島国際大学附属図書館サポーターブログ（http://iuk-plus.net/tosyokan/）」をのぞいてみてください。

また、図書館の仕事に興味のある方、図書館サポーターってなんだか楽しそうと思った方、一緒に活動しませんか？赤いジャンパーが目印の図書館サポーターに気軽に声をかけてください。お待ちしています。

Library Report

図書館Reサイクル祭を開催しました

11月21日（土）・22日（日）の2日間、除籍となった本や雑誌を、学生や地域の皆様に無料で譲渡する「図書館Reサイクル祭」を開催しました。初めての試みでしたが、大学祭期間中の開催ということもあり、多くの方に立ち寄っていただき、大盛況のうちに終了しました。

コピー機が新しくなりました

2階カウンター横のコピー機が新しくなりました。ご利用の際は、コピー機横の「複写申込書」に必要事項を記入し、必ずカウンターへ提出してください。また、事前に学生支援棟にて学生証のICにチャージを行ってからご利用ください。

＊料　金＊
モノクロ：1枚10円・カラー：1枚50円
※ 図書館・オーディオルームの資料以外はコピーできません。

新規データベース

今年度、2つのデータベースを新規に導入しました。学内のパソコンであれば、いつでも利用可能です。就活や、レポート作成等にご活用ください。

◆eol日本の企業100万社◆
中小企業から大企業まで、日本全国の約100万社のデータが収録されています。

◆ブリタニカ・オンライン・ジャパン◆
日本語の『ブリタニカ国際大百科事典』と、英語の『Encyclopædia Britanica』をベースとしており、一つのキーワードからあらゆる情報を検索することができます。

書庫内の資料を移動整理中です

１階にあった六法を移動書架へ、名簿類を地下へ移動しました。書庫資料の移動作業で、しばらくの間ご迷惑をおかけしますが、より利用しやすい環境にしたいと思っております。資料の場所が分からない時は、お気軽にカウンタースタッフへお尋ねください。

Library Report

ラーニングコモンズを開設しました

図書館をより活用できるスペースとして、ラーニングコモンズ「ComoSaka（コモサカ）」を開設しました。
机や椅子を自由に組み合わせ、図書館資料だけでなくIT機器等を使ったグループワーキングが可能なスペースです。学習の他にも、ミーティングやイベントスペースとして利用することができます。
ラーニングコモンズ「ComoSaka（コモサカ）」のグループでの利用については、２階カウンターへお申し込みください。

利用について

・予　　約 … 利用の10日前から受け付けます
・利用者数 … ２名以上
・利用時間 … ２時間以内
※ 予約が入っていない場合は利用時間の延長ができます。
利用時間の延長についてはカウンターへお尋ねください。

利用できる機器

・Surface　　・電子黒板
・ホワイトボード　　・プロジェクター
・スクリーン　　・プリンター

☆ ラーニングコモンズ「ComoSaka（コモサカ）」の貸切利用やイベントがある場合は、事前に案内を出しますので、ご協力をお願いいたします。

★ 食事は不可ですが、飲み物（ペットボトル・ふた付きの容器のみ）は持ち込みできます。

図書館にはラーニングコモンズ「ComoSaka（コモサカ）」の他にも、グループ学習室が３部屋、ＡＶルームが１部屋あります。授業や資格試験の勉強会、サークルのミーティングなどで利用できます。グループ学習室・ＡＶルームは予約制となっていますので、ご利用の際は２階カウンターへお申し込みください。

利用について

・予　　約 … 利用の10日前から受け付けます
・利用者数 … ４名以上
・利用時間 … グループ学習室〈２階〉
グループ学習室（1）〈３階〉
グループ学習室（2）〈３階〉
} 2時間以内
AVルーム〈３階〉 ＝ ３時間以内
※ 予約が入っていない場合は利用時間の延長ができます。
利用時間の延長についてはカウンターへお尋ねください。

グループ学習室〈２階〉・10名

グループ学習室（1）〈３階〉・14名

グループ学習室（2）〈３階〉・18名

AVルーム〈３階〉・18名

Library Report

文部科学大臣委嘱司書講習

平成27年度文部科学大臣委嘱司書講習が、７月20日から９月19日まで、本学で開催されました。図書館勤務の方だけでなく、司書になりたいという学生や主婦、また、地域も北海道、京都、大阪、福岡と、職業、地域、年齢も様々な方が受講され、受講生同士、よい刺激を受けているようでした。

司書講習は、夏の暑い最中、２か月間集中して行われますが、台風15号の接近により、19：30まで講義を余儀なくされた日もあり、今回は、よりハードな講習となりました。いつになく大変な講習でしたが、受講生の方々をはじめ、講師の先生方、司書講習運営委員の方々のご協力により無事に閉講式を迎えることができ、39名が司書資格に必要な単位を取得しました。

受講生の皆さん、ご苦労様でした。これからのご活躍をお祈りいたします。

新スタッフ紹介

図書館次長：藤田　淳二

研究教育開発センター次長との併任ですが、4年ぶりに図書館へ帰ってきました。３度目の附属図書館勤務となります。

とは言うものの、他部局にいても司書講習の授業を担当していましたので、まったく図書館から離れていたわけではありません。

しかし、久しぶりに座る図書館次長の席は、前と違った環境にあります。その環境の下、学生の皆さんが満足できる図書館経営に励みたいと思っています。よろしくお願いします。

図書館事務室長：濵田　照美

11年ぶりの図書館勤務は、一部業務委託の開始、ラーニングコモンズの開設、という図書館を取り巻く大きな環境の変化とともに始まりました。

手探り状態の新しい業務と、旧短大や電算化以前の未処理(保留)資料の事後処理という、過去と向き合う業務。知力(記憶力)・体力をフル稼働して、更に利用しやすい図書館になるよう職員、スタッフと一緒に頑張っていきたいと思います。

編集後記

平成27年度があわただしく終わろうとしています。今年度開設したラーニングコモンズ「ComoSaka（コモサカ）」は、一人で使うのもよし、グループで使うのもよし。ゼミに、ミーティングに、実習前の予行演習の場に…と色々な使い方ができますので、どうぞご利用ください。

一時は「年度内発行は難しいのでは？」と思われた図書館だより第36号でしたが、なんとか無事に発行することが出来ました。これも、原稿依頼がかなり遅くなったにもかかわらず、お忙しい中、快く執筆をお引き受けくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。これからも鹿児島国際大学附属図書館をよろしくお願いいたします。

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－　第36号　2016年２月29日発行
鹿児島国際大学附属図書館　〒891－0197　鹿児島市坂之上8－34－1
TEL：099－263－0732　FAX：099－261－1198　E－mail：tosyokan@ofc.iuk.ac.jp
（URL）http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php　（携帯URL）http://lbweb.iuk.ac.jp/nbp/